



## 《 生徒総会を通して身につける力～第49代生徒会始動～ 》

5月2日(金)平成26年度第1回生徒総会が開かれました。「<sup>じよ</sup>恕の心～つなげよう思いやりの輪 広げよう無限の可能性～」をスローガンに据え、第49代生徒会が始動しました。生徒会長の齋藤君はあいさつの中で、次のように全校諸君に語りかけてくれました。～1年生は初めての生徒総会です。分からないことは気軽に質問して、積極的に参加してください。また2・3年生は、第49代生徒会をより良くするためにもっとこうしたい、という思いをどんどん伝えてください。そして無言入退場など、全校生徒の協力で頑張っていきましょう。～

総会の議案書から16委員会の活動目標を紹介します。

- 校風委<校風委員が中心になって校風向上を目指す。>
- 校外風紀委<委員会活動を責任持って行い、全校の皆さんが違反なく安全に登下校できるようにする。>
- 整美委<当番活動を徹底し、整美委員から清掃を良くしていく。>
- 緑化委<緑あふれる西中を目指す。>
- ボランティア委<身近なボランティアに目を向け、全ての人々に笑顔を向けよう。>
- 給食委<残食ゼロを目指し、感謝して給食を食べよう。>
- 学芸委<学芸委員から学級・学年の歌声をリードしていく。>
- 図書委<全校のみんなが利用しやすい図書館をつくる。>
- 会報委<責任をもって、新聞の発行・原稿の提出をし、校内新聞を発展させる。>
- 購買委<明るい接客を心がけ、全校の人が利用しやすい購買にする。>
- 放送委<正確な放送を目指し、全校のみんなが楽しめる放送にする。>
- 保健委<健康観察を実施し、全校の皆さんが毎日元気に過ごせるようにする。>



- 体育委<体育館使用のルールを守り、全学年が体育館使用禁止のないよう当番活動を充実させる>
- 応援委<選手の支えとなる応援をする。>
- 銀河祭実行委<アンケート提出率100%を目指し、全校で銀河祭を作りあげる。>
- 代議<ひとりひとりが意見を出し合い、学校をより良いものにしていく。>

各委員会への質疑応答の中で、質問意見を出す生徒諸君は「頑張ってください。」とエールを伝え、答える役員諸君はそれに対し、「お礼を申し上げます。」と返してくれています。公（おおよけ）の場所でのコミュニケーションの取り方を学んでいることが感じられる受け答えです。ほんの小さな心配りだけど、豊かなコミュニケーションを身につけている西中の生徒諸君です。

### 《 餃子作り ～ 多文化理解と共生の中で ～ 》

国際理解教育係の田村美奈先生と中島朋美先生が中心となって、4月28日（月）夕刻に調理室で「餃子作り」を行いました。多文化理解と、親睦を深めることを柱に2時間余りの美味しい時間を過ごすことができました。

参加者は生徒、保護者、職員、地域の方を含め約40名でした。保護者・地域の方に餃子の皮作りから教えていただき、普段なかなか作れない本格的な餃子を味わうことができました。共に料理し食べる事を通し、親交を深める良い機会となりました。



### 《 つぶやく学習集団 》

<OJT=On-the-Job-Training>という養成システムがあります。ルーキー（newcomer）と中堅（back bone）ベテラン（expert）が、同じ職場やあるいは異業種の中で、課題解決や目標達成に向けて同じ土俵の上で語り合い、追究し合い、そして切磋琢磨し合い、より良い成果や方向を獲得していくといったところでしょうか。……

家庭科の授業です。学習課題は「幼児期を振り返ろう」。誕生から乳児期、離乳期、幼児期、児童期の成長段階のネーミングを確認し合います。きっと、小学校の家庭科でも履修してきているんでしょう、ポンポンと生徒はつぶやいてくれます。そして、次が面白い。幼児期と児童期の特徴を言葉で表現します。皆さんだったらど



う伝えます？生徒諸君はこう答えます。「身の回りのこと（トイレ・家事など）を、自分でやり始める時期」そして「ほとんどのことを自分でやれるようになった」と識別します。分かりやすく説明していますよね。その後で、思春期、青年期、とつなげていきます。生徒とのやりとりで「未熟であること＝青」といったネーミングの由来を追究しつつ、授業者は、次時からの単元のオリエンテーションとして、この時間を位置づけていきました。

生徒のつぶやきが気兼ねなく飛び出してくる学習集団でした。そのつぶやきに学習の価値をつけさせてあげられると、より追究度の高い討論になっていく可能性を備えた学習集団でした。知的驚きや未知の分野へ足を踏み入れていく楽しさが、価値あるつぶやきに通じていくんでしょね。

授業を参観すると、生徒の思考・停滞・逡巡が見えてくることが多いです。まさにそこで何が起きているのか、どんな化学変化をもたらそうとしているのか・・・そして、それを語り合う機会を私たちは尊重していきたいと考えています。教科会で、教材研究について語り合う、そして授業を見合う、また検討し合う、そうして私たち教員自身が授業に向かう技能と深まりを身に纏っていく、生徒達も学習へ自信を深めていく。そのためのつぶやきが聞こえてくる教科会であり、職員室である、それが教育の OJT なのかもしれません。先生方の切磋琢磨が始まっています。

## 《 夏の大会に向けて、頑張っています！ 》

〈第24回県中学生春季ソフトボール大会 5/4〉

○ソフトボール部 準優勝

〈第37回市長杯争奪中学生野球大会 5/5〉

○野球部 第3位

～ ～ ～ ～ ～



諏訪出身の詩人でありかつて中学校教員でもあった小海永二（こかい えいじ）さんの、詩をどうぞ。

### ～ 笑い 小海永二 ～

おかしいから笑う／笑うからますますおかしい／十二歳年長の先生たるぼくが／  
黒板に生徒たる彼の似顔を描く／十二歳年下の生徒たる彼も／黒板に先生たるぼくの似顔を描く  
似顔の方は生徒たる彼の方がぼくの先生なので／勿論うまい／他の生徒たちはどっと笑う  
ぼくも声を合わせていっしょに笑う／中学一年の坊主ども娘っ子ども／ひよっ子みたいな連中よ  
ほんとにおかしい／おかしいから笑う／笑うからますますおかしい／けれども笑いながら  
ぼくには心の中でしゅんとしてくるものがある／痛いような／悲しいような――  
ぼくはふと／大人になった時の彼ら彼女らを想像する／坊主ども娘っ子どもを  
先に待っているものについて考える